

科目名	教化学演習 A					単位	2.0
担当教員	安藤 弥						
授業形態	演習	開講期間	通年	配当年次	1	授業番号	2391

●授業のテーマ

宗祖親鸞聖人の生涯と思想に学ぶ

●到達目標

真宗大谷派教師として必要な学びの姿勢、基礎的知識、演習（座談会）形式の方法を習得する。

●学習内容(授業概要)

この時間では、浄土真宗を開いた親鸞の生涯をたどり、親鸞がその生涯で何を問題にしたのかを皆で問い、学んでいきたいと思いますが、テーマにあるように①「宗祖親鸞聖人」の②「生涯と思想」③「に」学ぶこととなります。

①中世社会の人というだけでなく、絶対的存在でももちろんない。あくまで「宗祖」としての「親鸞聖人」。そこには親鸞へと向かう主体＝わたしの自覚が必要です。わたしたち一人ひとりが親鸞にどう向かうのか、その方法を学びます。

②生涯（歴史）と思想（教義）の両方を同時に学んでいくことが大切です（どちらかを軽視するような姿勢をとるわけにはいきません）。

③「を」ではなく「に」です。単に知識の習得にとどまることなく、そこから何を自分に問い返せるか。「浄土真宗の教えに学んでいく」姿勢が大切です。

この時間は演習形式で進めていきます。毎時間、受講者全員でテキスト『宗祖親鸞聖人』を読み、そこからさまざまな問題を見出していきます。受講者各自が報告を担当し、担当者は割り振られた箇所について事前に調べてレジュメを作成し、全員の前で発表します。発表をふまえて全員で討論を行ない、現代社会と私たち、中世社会を生きた親鸞など、さまざまな問題について、ともに考えていきたいと思ひます。

●学習内容(授業計画)

≪前期≫

- 1 演習ガイダンス
- 2 導入講義
- 3 第一章 人と生まれて 生涯
- 4 第一章 人と生まれて 法語
- 5 第二章 発心 生涯
- 6 第二章 発心 法語
- 7 第三章 道を求めて（一）—懸命の修学— 生涯
- 8 第三章 道を求めて（一）—懸命の修学— 法語
- 9 第四章 道を求めて（二）—六角堂参籠— 生涯
- 10 第四章 道を求めて（二）—六角堂参籠— 法語
- 11 第五章 本願に帰す 生涯
- 12 第五章 本願に帰す 法語
- 13 第六章 法難 生涯
- 14 第六章 法難 法語
- 15 前期総括

≪後期≫

- 1 前期の復習
- 2 第七章 民衆にかえる 生涯
- 3 第七章 民衆にかえる 法語
- 4 第八章 総論
- 5 第八章 大悲に生きる (一) 愚者になりて
- 6 第八章 大悲に生きる (二) 正定聚に住す
- 7 第八章 大悲に生きる (三) 悪人正機
- 8 第八章 大悲に生きる (四) 弟子一人ももたず
- 9 第八章 大悲に生きる (五) 善鸞義絶
- 10 第八章 大悲に生きる (六) 念仏者のしるし
- 11 第八章 大悲に生きる (七) 無碍の一道
- 12 第九章 仏道に捧ぐ 生涯
- 13 第九章 仏道に捧ぐ 法語
- 14 後期総括・理解度の確認
- 15 最終総括

●準備学習・事後学習の内容

準備学習ではテキスト『宗祖親鸞聖人』の該当章を熟読しておくことを最低限の課題とし、必要に応じて学びに必要な情報を収集すること。事後学習においては演習内容を復習し、次の演習に課題をつなげること。

●成績評価方法・基準

平常点（受講姿勢など）50%、試験（筆記またはレポート）50%

●テキスト（必携）

≪No.1.≫書籍名：『宗祖親鸞聖人』（東本願寺、1978年初版）

≪No.2.≫書籍名：『真宗聖典』（東本願寺、1978年）

●参考文献／その他

赤松俊秀『親鸞』（吉川弘文館人物叢書、1961年）

平松令三『親鸞』（吉川弘文館歴史文化ライブラリー、1998年）

草野顕之編『日本の名僧⑧ 信の念仏者 親鸞』（吉川弘文館、2004年）

教学研究所編『親鸞聖人行実』（東本願寺、2008年）

※その他、参考文献はたくさんあります。

適宜紹介しますが、各自でも探してみてください。

●履修上の注意

積極的な受講姿勢が必須です。受講生の人数によっては相談の上、進行には若干の変更の可能性があります。限られた時間のなかで何か見つけてください。